



## 2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年10月27日

上場会社名 山崎製パン株式会社  
 コード番号 2212 URL <http://www.yamazakipan.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯島 延浩  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 会田 正久  
 四半期報告書提出予定日 2020年11月10日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-3864-3110

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年12月期第3四半期の連結業績(2020年1月1日～2020年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	749,524	△4.0	10,933	△37.0	12,253	△35.3	4,300	△55.5
2019年12月期第3四半期	780,604	△0.6	17,364	△4.6	18,928	△2.8	9,664	△6.7

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 2,962百万円 (△64.0%) 2019年12月期第3四半期 8,224百万円 (△47.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	19.78	—
2019年12月期第3四半期	44.46	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	691,130	356,574	47.1
2019年12月期	728,149	358,416	44.9

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 325,600百万円 2019年12月期 327,253百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	—	—	20.00	20.00
2020年12月期	—	—	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	—	—	22.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,012,000	△4.6	15,800	△36.4	17,900	△35.2	5,300	△61.8	24.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年12月期3Q	220,282,860 株	2019年12月期	220,282,860 株
-------------	---------------	-----------	---------------

② 期末自己株式数

2020年12月期3Q	2,891,607 株	2019年12月期	2,891,566 株
-------------	-------------	-----------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年12月期3Q	217,391,280 株	2019年12月期3Q	217,391,467 株
-------------	---------------	-------------	---------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2020年1月1日～2020年9月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大により急速に悪化しましたが、政府の経済対策や海外経済の改善もあり持ち直しの動きが見られました。個人消費につきましては、5月の緊急事態宣言解除以降持ち直しに転じたものの低調に推移しました。

当業界におきましては、外出自粛や在宅勤務が広がり消費行動が変化する中、量販店やドラッグストアを中心に売上が増加する一方で、コンビニエンスストアやフレッシュベーカーリー等の小売事業におきましては、オフィス街や駅周辺を中心に来店客数の減少により売上が減少しました。また、新型コロナウイルス感染拡大の終息の見通しが立たない中で、消費者の節約志向は更に強まり、販売競争が激化する厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にあります、当社グループは、新型コロナウイルス感染拡大の中で製品の安定供給を維持するため、37.2℃以上の微熱または発熱がある者、体のだるさ、息苦しさ、味覚・嗅覚異常の自覚症状がある者を自宅待機とし、事業所別に自宅待機者数を日々管理するなど、科学的根拠に基づいた感染防止対策を実施し、日常業務の着実な遂行につとめました。また、食パンにおいてヤマザキの技術により科学的根拠の上に立った品質向上に取り組み、菓子パンの主力製品にルヴァン種等を活用した品質向上をはかるとともに、女性製品開発担当者を活用して市場動向に即応した新製品開発を推進するなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進しました。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、ヤマザキパンの営業部門の最前線にある小売事業として、日次管理・週次管理により日々の仕事の精度を高め、デイリーヤマザキの商品部と当社生産各部合同の週次商品施策・営業戦略小委員会等を通して当社グループ商品の充実をはかり、デイリーヤマザキ一店一店の課題に取り組みました。また、店舗改装を計画的に実施し、デイリーホットの導入や店舗レイアウトの改善などヤマザキらしい店舗づくりに取り組みました。さらに、在宅勤務が常態化する中で、住宅立地店舗においては生鮮食品や日配品等の品揃えを充実し、来店客数の増加をめざしました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は7,495億24百万円(対前年同期比96.0%)、営業利益は109億33百万円(対前年同期比63.0%)、経常利益は122億53百万円(対前年同期比64.7%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は43億円(対前年同期比44.5%)となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続く中、広告宣伝費等のコスト削減につとめたものの、コンビニエンスストアチェーンとの取引減少やフレッシュベーカーリー等小売事業の売上減少もあり、減収減益となりました。

セグメント別の状況

## &lt;食品事業&gt;

食品事業の主要製品別の売上状況は次のとおりであります。

## ①食パン部門(売上高734億82万円、対前年同期比100.1%)

食パンは、主力の「ロイヤルブレッド」が大きく伸長するとともに、「ダブルソフト」が堅調に推移しましたが、「超芳醇」シリーズや低価格帯製品の伸び悩みもあり、前年同期並みの売上となりました。

## ②菓子パン部門(売上高2,531億2百万円、対前年同期比95.1%)

菓子パンは、「ルヴァンバターロール」などの食卓ロールや、「塩バターフランスパン」などのハードロールが伸長しました。9月には品質を向上させた「アップルパイ」など主力製品が回復するとともに、新たな取組みであるチルド製品の「フレンチクーラー」が寄与しましたが、コンビニエンスストア向け製品や(株)ヴィ・ド・フランス等のフレッシュベーカーリーの売上減少もあり、前年同期の売上を下回りました。

## ③和菓子部門(売上高509億59百万円、対前年同期比100.2%)

和菓子は、主力の串団子が伸長し、新製品の「あんずっしりどら焼」が寄与するとともに、新たな取組みであるチルド製品の「クリームたっぷり生どら焼」や「北海道チーズ蒸しケーキのろけるぷりん」、「ブッセ」が好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

## ④洋菓子部門（売上高988億26百万円、対前年同期比102.2%）

洋菓子は、2個入り生ケーキが高品質・高付加価値・高単価製品の寄与もあり伸長するとともに、「大きなツインシュー」などのシュークリームが順調に推移し、コンビニエンスストア向け製品が大きく伸長するなど、好調な売上となりました。

## ⑤調理パン・米飯類部門（売上高1,095億19百万円、対前年同期比88.6%）

調理パン・米飯類は、主要販路であるコンビニエンスストアにおいてサンドイッチやおにぎり、弁当の販売が減少したこともあり、前年同期の売上を下回りました。

## ⑥製菓・米菓・その他商品類部門（売上高1,178億62百万円、対前年同期比97.2%）

製菓・米菓・その他商品類は、ヤマザキビスケット(株)の「エアリアル」や(株)東ハトの「ポテコ」などのスナックが伸長しましたが、ヤマザキショップ向けの仕入商品の売上減少もあり、前年同期の売上を下回りました。

以上の結果、食品事業の売上高は7,037億52百万円（対前年同期比96.1%）、営業利益は116億99百万円（対前年同期比69.4%）となりました。

## &lt;流通事業&gt;

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、在宅勤務等による来店客数の減少や休店、営業時間短縮の影響に加え、店舗数の減少もあり、営業総収入は359億7百万円（対前年同期比89.9%）、営業損失は29億31百万円（前年同期は11億86百万円の営業損失）となりました。

## &lt;その他事業&gt;

その他事業につきましては、売上高は98億64百万円（対前年同期比113.8%）、営業利益は17億75百万円（対前年同期比133.9%）となりました。

## (2)財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は6,911億30百万円で、前連結会計年度末に対して370億18百万円減少しました。流動資産は2,333億29百万円で、受取手形及び売掛金の減少などにより、前連結会計年度末に対して285億10百万円減少しました。固定資産は4,578億円で、投資有価証券の減少などにより、前連結会計年度末に対して85億8百万円減少しました。負債合計は3,345億55百万円で、支払手形及び買掛金等の支払債務の減少や借入金の返済により、前連結会計年度末に対して351億77百万円減少しました。純資産は3,565億74百万円で、その他有価証券評価差額金の減少などにより、前連結会計年度末に対して18億41百万円減少しました。

この結果、自己資本比率は47.1%となりました。

## (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が続く中で、徐々に持ち直していくことが期待されますが、当業界におきましては、引き続きコンビニエンスストアやフレッシュベーカリー等の小売事業において売上が伸び悩むとともに、消費者の節約志向が強まり販売競争が一段と激化する厳しい経営環境になるものと思われま

す。このような状況下にあります。当社グループは、引き続き科学的根拠に基づいた新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しつつ、食パンの更なる品質向上に取り組むとともに、女性製品開発担当者を活用し、市場動向に即応した新製品開発につとめるなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略を推進してまいります。さらに、デイリーヤマザキ事業や(株)ヴィ・ド・フランスのフレッシュベーカリー事業におきましても、日次管理・週次管理の経営手法により問題課題の把握と解決に取り組み、着実に業績回復をめざしてまいります。

2020年12月期通期（2020年1月1日～2020年12月31日）連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績も踏まえ、新型コロナウイルス感染拡大の影響が当期末まで継続するものと想定し、2020年8月4日付にて公表した連結業績予想を修正いたしました。

業績予想の修正の詳細につきましては、本日公表いたしました「2020年12月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	111,112	116,581
受取手形及び売掛金	114,559	82,034
商品及び製品	12,178	13,007
仕掛品	653	967
原材料及び貯蔵品	10,978	9,887
その他	12,697	11,193
貸倒引当金	△342	△342
流動資産合計	261,839	233,329
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	386,532	389,778
減価償却累計額	△281,357	△285,887
建物及び構築物 (純額)	105,175	103,891
機械装置及び運搬具	513,883	518,893
減価償却累計額	△425,345	△434,890
機械装置及び運搬具 (純額)	88,538	84,003
工具、器具及び備品	35,475	36,623
減価償却累計額	△26,917	△28,004
工具、器具及び備品 (純額)	8,557	8,619
土地	109,752	110,590
リース資産	10,496	10,318
減価償却累計額	△6,573	△6,226
リース資産 (純額)	3,923	4,091
建設仮勘定	1,536	4,081
有形固定資産合計	317,483	315,278
無形固定資産		
のれん	13,658	12,501
その他	8,765	9,243
無形固定資産合計	22,424	21,745
投資その他の資産		
投資有価証券	72,361	66,954
長期貸付金	836	863
退職給付に係る資産	594	587
繰延税金資産	24,973	25,702
その他	30,479	29,488
貸倒引当金	△2,843	△2,819
投資その他の資産合計	126,401	120,777
固定資産合計	466,309	457,800
資産合計	728,149	691,130

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	78,805	66,477
短期借入金	49,293	50,471
リース債務	1,598	1,536
未払法人税等	6,817	2,757
未払費用	40,756	34,272
賞与引当金	4,437	12,386
販売促進引当金	1,117	1,043
店舗閉鎖損失引当金	0	43
資産除去債務	40	6
その他	41,204	27,617
流動負債合計	224,073	196,611
固定負債		
社債	90	-
長期借入金	22,904	16,845
リース債務	2,768	2,843
役員退職慰労引当金	3,818	3,991
環境対策引当金	20	3
退職給付に係る負債	104,646	102,991
資産除去債務	4,600	4,693
その他	6,809	6,573
固定負債合計	145,658	137,944
負債合計	369,732	334,555
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,014	11,014
資本剰余金	9,667	9,660
利益剰余金	296,642	296,595
自己株式	△5,241	△5,241
株主資本合計	312,082	312,028
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28,652	24,777
繰延ヘッジ損益	-	0
土地再評価差額金	99	99
為替換算調整勘定	60	160
退職給付に係る調整累計額	△13,639	△11,465
その他の包括利益累計額合計	15,171	13,571
非支配株主持分	31,162	30,974
純資産合計	358,416	356,574
負債純資産合計	728,149	691,130

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	780,604	749,524
売上原価	504,914	489,162
売上総利益	275,689	260,361
販売費及び一般管理費	258,325	249,427
営業利益	17,364	10,933
営業外収益		
受取利息	66	75
受取配当金	691	683
固定資産賃貸収入	673	684
持分法による投資利益	205	286
補助金収入	214	-
雑収入	834	802
営業外収益合計	2,685	2,532
営業外費用		
支払利息	542	491
固定資産賃貸費用	227	251
雑損失	351	469
営業外費用合計	1,122	1,212
経常利益	18,928	12,253
特別利益		
固定資産売却益	75	72
助成金収入	-	※1 97
投資有価証券売却益	0	40
その他	6	-
特別利益合計	82	209
特別損失		
固定資産除売却損	1,393	892
減損損失	342	478
臨時休業等関連損失	-	※2 312
業務委託特別負担金	295	-
その他	388	120
特別損失合計	2,420	1,804
税金等調整前四半期純利益	16,590	10,658
法人税等	6,827	6,091
四半期純利益	9,763	4,567
非支配株主に帰属する四半期純利益	98	266
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,664	4,300



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	9,763	4,567
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,019	△3,862
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	△288	77
退職給付に係る調整額	1,796	2,184
持分法適用会社に対する持分相当額	△27	△4
その他の包括利益合計	△1,538	△1,604
四半期包括利益	8,224	2,962
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,279	2,700
非支配株主に係る四半期包括利益	△54	262

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症に伴う政府による緊急事態宣言や各自治体からの休業要請等を受け、コンビニエンスストアやフレッシュベーカリー等小売事業においては来店客数減少の影響を受け売上が伸び悩みました。

緊急事態宣言が解除された後は徐々に回復傾向にありますが、新型コロナウイルス感染症の影響は、当連結会計年度末までは継続するものとの仮定に基づき、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性にかかる会計上の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響は不確実性があり、将来における財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 助成金収入

新型コロナウイルス感染症に伴う政府による緊急事態宣言や各自治体からの休業要請等を受け、コンビニエンスストアやフレッシュベーカリー等小売事業において臨時休業や営業時間の短縮を実施いたしました。

当該休業により支給した休業手当等に対する雇用調整助成金等は、「助成金収入」として特別利益に計上しております。

※2 臨時休業等関連損失

新型コロナウイルス感染症に伴う政府による緊急事態宣言や各自治体からの休業要請等を受け、コンビニエンスストアやフレッシュベーカリー等小売事業において臨時休業や営業時間の短縮を実施いたしました。

当該休業期間中の固定費（人件費、賃借料、減価償却費等）及び関連する費用については、「臨時休業等関連損失」として特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	731,975	39,958	8,670	780,604	—	780,604
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,447	4,811	27,318	38,576	△38,576	—
計	738,423	44,769	35,988	819,180	△38,576	780,604
セグメント利益又は損失(△)	16,856	△1,186	1,325	16,995	369	17,364

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額369百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	703,752	35,907	9,864	749,524	—	749,524
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,490	4,418	27,263	38,172	△38,172	—
計	710,242	40,325	37,128	787,696	△38,172	749,524
セグメント利益又は損失(△)	11,699	△2,931	1,775	10,543	390	10,933

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額390百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3. 補足情報

## (1) 連結販売実績

(単位：百万円)

セグメント名称	区 分	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)		比 較 増 減	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	前年同期比
食品事業	食 パ ン	73,426	9.4%	73,482	9.8%	56	100.1%
	菓 子 パ ン	266,107	34.1	253,102	33.8	△13,004	95.1
	和 菓 子	50,872	6.5	50,959	6.8	87	100.2
	洋 菓 子	96,678	12.4	98,826	13.2	2,148	102.2
	調理パン・米飯類	123,610	15.8	109,519	14.6	△14,090	88.6
	製菓・米菓・その他商品類	121,282	15.6	117,862	15.7	△ 3,420	97.2
	食 品 事 業 計	731,975	93.8	703,752	93.9	△28,223	96.1
	流 通 事 業	39,958	5.1	35,907	4.8	△ 4,051	89.9
	そ の 他 事 業	8,670	1.1	9,864	1.3	1,194	113.8
	合 計	780,604	100.0	749,524	100.0	△31,079	96.0

## (2) 主要子会社実績

(単位：百万円)

	売 上 高				営 業 利 益			
	前第3四半期	当第3四半期	増 減 額	増 減 率	前第3四半期	当第3四半期	増 減 額	増 減 率
(株)不二家〈連結〉	72,935	69,625	△ 3,309	△ 4.5%	161	503	342	212.6%
(株)サンデリカ	89,676	80,606	△ 9,069	△ 10.1	2,289	△ 327	△ 2,616	—
ヤマザキビスケット(株)	23,253	24,374	1,120	4.8	43	218	174	398.5
(株)東ハト	19,471	20,150	678	3.5	593	881	288	48.6
(株)ヴィ・ド・フランス	24,922	17,270	△ 7,652	△ 30.7	259	△ 2,831	△ 3,091	—

## (3)2020年12月期第3四半期の単体業績(2020年1月1日~2020年9月30日)

## ①単体経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	540,916	△ 3.2	12,315	△ 6.1	14,359	△ 8.4	9,074	△ 2.9
2019年12月期第3四半期	558,992	0.5	13,119	△ 1.0	15,684	△ 1.0	9,343	△ 2.7

## ②単体財政状態

	総資産	純資産
	百万円	百万円
2020年12月期第3四半期	522,202	305,048
2019年12月期	543,425	304,167

(注) 単体業績数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

## (4)単体販売実績

(単位:百万円)

期別 品種別	前第3四半期 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)		当第3四半期 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	前年同期比
食パン	74,119	13.3%	74,172	13.7%	52	100.1%
菓子パン	251,392	45.0	240,442	44.5	△ 10,949	95.6
和菓子	50,885	9.1	50,992	9.4	107	100.2
洋菓子	72,251	12.9	77,402	14.3	5,150	107.1
調理パン・米飯類	41,220	7.4	36,259	6.7	△ 4,960	88.0
製菓・米菓・その他商品類	34,427	6.1	31,261	5.8	△ 3,166	90.8
小計	524,297	93.8	510,530	94.4	△ 13,766	97.4
デイリーヤマザキ事業	44,769	8.0	40,325	7.4	△ 4,443	90.1
内部消去	△ 10,074	△ 1.8	△ 9,939	△ 1.8	135	—
合計	558,992	100.0	540,916	100.0	△ 18,075	96.8

## (5)単体営業利益増減の内訳

(単位:百万円)

	2019年 第3四半期		2020年 第3四半期		増減額	増減率 (%)
	金額	%	金額	%		
営業利益						
山崎製パン(デイリーヤマザキ事業を除く)	14,306	2.7	15,247	3.0	941	6.6
デイリーヤマザキ事業	△ 1,186	△ 2.7	△ 2,931	△ 7.3	△ 1,745	—
合計	13,119	2.3	12,315	2.3	△ 804	△ 6.1

## &lt;山崎製パン(デイリーヤマザキ事業を除く)増減内訳&gt;

(単位:百万円)

	2019年 第3四半期		2020年 第3四半期		増減額	増減率 (%)	営業利益増減要因
	金額	%	金額	%			
売上総利益	163,072	31.1	160,987	31.5	△ 2,085	△ 1.3	売上高の減少 ▲ 6,388 原材料費の減少 2,826 労務費の増加 ▲ 593 経費の減少 726 償却費の増加 ▲ 25 仕入品等の減少 1,369
販売費及び一般管理費	148,766	28.4	145,739	28.5	△ 3,026	△ 2.0	人件費の減少 290 経費の減少 2,525 償却費の減少 211

(注) 「営業利益増減要因」欄で▲は営業利益のマイナス影響を表しています。

「%」欄は山崎製パン(デイリーヤマザキ事業を除く)の売上高に対する比率を記載しています。